

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アートチャイルドケアSEDスクール神戸王子			
○保護者評価実施期間	2025年10月15日 ~ 2025年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	2025年10月15日 ~ 2025年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎回、保護者とともに、お子さまのご様子をうかがうことができる。	お聞きしたこと、お伝えしたことは記録に残すなど共有する。 当日の活動の目的を伝え、できていることに焦点を当ててお伝えする。できなかったことは成長している部分や、今度どうしていくかをお伝えする。 その場でお答えできなかったがあれば確認し、次回に改めてお伝えする。 ご相談や困られていることは、継続してお伺いし、考えていく。	グループセッションの際は、1対1でお話できる時間が限られるため、お声がけいただきやすい雰囲気、また、職員からもお声がけする機会をもつよう心がける。 ご希望があれば、小学校や他事業所など関係機関への訪問や連携できる機会をもてるようにし、お子さまのご様子をより知ることでさらにお子さまに合った係わりができるようにする。 ご希望があれば、セッションと別の時間にご相談いただく時間をもつ。
2	さまざまな専門職種の指導員がお子さま一人一人に合ったプログラムを提供することにより、多面的に捉えることができる。	毎回セッションの後に全員でその日のご様子を共有し、いろいろな角度から意見を出し合い、話し合う時間を設けている 担当を一人に絞らずいろいろな視点でお子さまの様子や状態を知ることができるようしている	今後もお子さまの様子、保護者さまのご不安やご希望を共有し、意見を出し合うことで課題に合った療育を提供できるようにする。 必ず全職員が共有できるよう伝達を徹底する。
3	グループセッションをメインにしているため、子どもさん同士の係わりを多く持てる。	自分たちで動いたり話し合ったりできるので、指導員は多く入らず、自主性を大切に係わる。	個別の係わりも必要と思われるお子さまには個別のセッションもスポットでお誘いしてみる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	体を動かして遊ぶスペースを確保しにくい。	セッションルームが狭い。	遊具をはずしてスペースを広げる。 お子さまの組み合わせによって静、動の活動の取り組む順を決めるなど集中できる環境をつくる。
2	利用定員を満たしていない。	職員のライフスタイルの変化などにより、人員が減った時期があったため、見学をお待ちいたかざるを得なかつた。	人員が増えたため、ご見学を再開する。